

第十二回 御府内八十八ヶ所霊場めぐり

第一日。高野山東京別院（高輪）－聖輪寺（千駄ヶ谷）

日時 平成27年1月28日(水) 晴れ午前9時
場所 品川駅下車徒歩8分高輪公園
主催 東京都ウォーキング協会
距離 19キロ 参加費1000円 参加者75名
スタート 午前9時20分 ゴール午後3時

状況 今回で5回目の八十八ヶ所めぐりに参加した。品川まではやはり遠い・ラッシュタイムもあり高輪公園に着いたのは15分前である2時間はかかる。前回よりも中止した人と新しく入った人とあり少し人数は少ない。今年は高野さん、と三ツ森さんを仲介し埼玉県参加者は私を含めて8名となる。港区は坂が多い町である。今日も少々坂が多く苦しむ。公園の裏側は洞坂という。洞坂は港区高輪3丁目16番と19番の境界に位置する坂である。道は狭く車も通りにくい。坂は滑り止め舗装されている。洞坂はこの辺は洞村であった地名からついたようだ。洞坂を上りきると桂坂に入る。桂坂を上りきると左に高野山東京別院が見える。



1番高野山東京別院



洞坂



大石蔵之介切腹地

桂坂は港区高輪2丁目12番と3丁目19番の境界に存在する。地名の由来は昔葛蔓がはびこり鬘をかぶった僧侶が品川からの帰途急死したため鬘を桂に当字にしたようだ。

高野山東京別院は広い敷地を有しており境内には新しい記念碑が毎年建立されている。境内には不動堂、修行大師、お砂跡場等がある。

江戸時代には高野山学侶方の江戸在番所として慶長年間に浅草日輪寺に寄留して開創された。明暦13年〔1655〕には幕府より芝二本榎に土地が下賜され通宝元年〔1673〕高野山江戸在番所高野寺として完成した。元禄15年〔1702〕の火災で焼失したが翌年に復興した。ここが一番札所、品川の文殊院が最後の結願寺（今は杉並区へ移築）で88番札所である。明治に入ると在番所が廃止された。葛飾牛島の長寿寺から名籍を移した。長寿寺は推古天皇25年〔617〕備後国勅願寺として創建され僧行基により信濃国深瀬（現在の松本市）へ移り寛文4年〔1664〕には葛飾へ移築された古刹である。昭和2年東京別院と改称し。本堂は昭和63年に完成された。東京別院の山門から出て明王院（81番）に向か

った。途中に細川家下屋敷があり、この地で忠臣蔵の大石蔵之助他16名が切腹された場所が残っている。今は細長く残っているが恐らく相当な広さの下屋敷であったはずである。この座敷にて切腹して介添え人から首を切り落とされた。庭の一部が見られるがすっかり武家屋敷は消えている。その脇を歩くと大きなシイの木が見られる。幹回り8.13m樹高10.8m樹齢300年以上の古木である。シイの木は別名スタジイと呼ばれる。此の古木は幹が切られ低い部門に空洞が生まれ樹医により修復されている。



シイの木



おしろい地藏尊【王鳳寺】



84番明王院

スタジイは別名イタジイとかナカジイとか呼ばれ本州の福島、新潟以南、四国九州沖縄に分布するブナ科の常緑の高木である。大石ら16名の切腹の様子を知る唯一の証樹であろう。幽霊坂を下る。幽霊坂は東京にはたくさん存在している。ここは三田4丁目にある幽霊坂である。この坂の周辺には寛永12年(1635)に江戸城拡張に伴い八丁堀より移転されてきた寺院群が建ち並び昼でも幽霊が出そうな暗い寂しい場所であった。坂の右側には隋応寺、仙翁寺、実相寺、左には長松寺、称護寺、王鳳寺、正堂院などがある。なお幽霊坂は文京区目白台、北区田端、千代田区神田淡路町、千代田区駿河台、新宿区牛込、品川区などに存在している。坂を降りる道が狭く車が上ってきて混乱した。左側に王鳳寺がある。その入り口におしろい地藏尊が鎮座している。化粧延命地藏尊と呼ばれる。八丁堀に地藏橋畔の放置されていたものを王鳳寺の住職格翁宗逸和尚が修復、泥まみれの地藏を不憫に思い白粉を塗って祀った所、和尚の痣が消えた。この為顔のシミ、痣、傷に悩む人が地藏の顔を綺麗にして祈願する人が増えた。今でも毎日白粉が塗られている。この地点から右へ坂を下ると左側に84番札所明王院がある。真言宗豊山派で五大山不動寺という。寛永12年[1635]八丁堀から移転する。源頼朝によって相模国に迎えられ長明年間[1457-66]武蔵国東江(八丁堀)に移転したという伝承が残る。



65番大聖院



69番室生院



69番室生院陣幕力士頭彰碑

明王院を出て左に曲がると広い通りに出た。右に曲がって進むと右側に寺群があった。3軒並んである。2軒は高層マンションの一階に小さな堂祠があった。65番大聖院は明王山遍昭寺大聖院という。慶長16年〔1611〕数寄屋町に創建されその後八丁堀に移転す。はじめは真言宗愛宕泉福寺末寺であった。開山は宥専上人で明治12年には京都総本山智積院直轄寺に変わる。明治8年には境内に青山学院の前身の寺小屋式学校が開かれた、この寺は入口から入り突き当りが庫理がある。右奥に御蔵のような本堂がある。右壁に向かって陣幕の大関、横綱の顕彰碑が建っていた。陣幕は江戸時代の最後の横綱であった。出身は鳥根県の貧しい農家で大阪へ出て朝日山部屋の門入りし相撲界に入る。江戸へ出て秀の山部屋に所属し力を発揮して徳島藩、出雲藩、薩摩藩のお抱え力士として活躍した。1866年に大関、翌年五条家、および吉田家の推薦で江戸時代最後の横綱免許を授与された。幕内在位19場所、三役在位6場所、大関1場所、横綱2場所で勝率は横綱では10割、1867年3月7勝2分、同年11月7勝で負けなし。幕内成績は87勝5敗の成績であった。横綱退位後年寄陣幕で活躍しその後実業界に入り成功した。富岡八幡宮の横綱力士碑は陣幕の力で建設された。墓は品川区光取寺と尾道市光明寺にある。境内の広さは毎回思うが高層マンションが十分建てられる広さでありぽっかり空間があるようだ。ここを出て隣に80番長命寺がある。ここもマンションの一室である。殺風景な寺院である。木造の寺を連想するが東京寺院



80番長延寺



13番龍生院



龍生院の綱産湯井戸

はすっかり一変した。新義真言宗の末寺で豊山派に属し大元山宇賀院長命寺という。創建不詳なれど数寄屋町付近あり寛永12年にこの地へ移築させられた。長命寺を出て慶応義塾大学の前を通る。高層な建物が出来ており昔の慶応義塾大学の雰囲気はない。福沢諭吉が演説をした高台が通りから見えておりここだけ変わらない。慶應義塾大学を見ながら左に曲がり途中から左に入ると13番札所龍生院がある。ここ2年間工事中で入れなかったが今は完成し入口から入る。6階建ての寺院に変貌した。エレベーターが2基あり6階へ上る。きれいな本堂を拝観してトイレを借りる。きれいなビルの中の寺に変わる。外へ出ると渡辺綱の産湯井戸がここも綺麗に修復され尤もらしい雰囲気であった。渡辺綱は平安時代中期の武将である源宛の子供で正式名は源綱という。源宛の子として武蔵国足立郡箕田郷（現在の鴻巣市）に生まれた。仁明源氏の源敦の養子となり母方の里撰津

国西成郡渡辺（現在の大阪府中央区）に居住し渡辺綱、渡辺源氏綱と称した。源頼光に仕え頼光の四天王の筆頭として剛勇で知られる。大江山の酒呑童子を退治したり京都の一条戻橋で鬼の腕を源氏の名刀「鬘の太刀」で切り落としたり逸話の多い。その子孫は渡辺党と呼ばれ内裏警護に従事し滝口武者として瀬戸内海の水軍を総括した。墓所は兵庫県川西市の小童寺に廟がある。龍生院を出て綱坂を上る。港区三田三丁目にある坂は三田綱坂、または渡辺坂とも言われている。渡辺綱がこの付近で生まれた伝説が残り坂の名称となった。この付近は渡辺綱にまつわる伝承が多い。綱の手引く坂とか三田綱町の名称も使われた時もある。綱坂を上りきるとイタリア大使館がある。ここは忠臣蔵の大石主税良金ら十名の切腹した地である大使館の中に顕彰碑があり毎年命日にはイタリア駐日大使が供養を行っている。大石主税の他堀部安兵衛、中村勘介、大高源吾、岡野吉右衛門などがこの地で散った。

11時5分大使館から坂を下る。綱の引き坂を下る。ここは渡辺綱が幼少のころ姥に手を引かれこの坂を行き来したという伝説から付けられた。首都高速2号目黒線のガードをくぐり三田5丁目交差点を渡る。反対側を歩いて右に入ると絶江坂を上る。左側に5番札所延命院があった。



5番札所延命院



5番札所延命院



フィンランド大使館

延命院は真言宗智山派で金剛山寶幢寺と号す。創建不詳ながら法印秀圓が慶安3年〔1650〕が開山、宝永年間〔1704-1710〕木村町の内新町と呼ばれる地からこの地に移転した。旧幕府時代は赤羽稻荷の別当であった。墓所には柔術家戸塚彦右衛門英証の墓がある。なお住職の御内儀は一時港区区会議員をされていたという。敷地も狭い本堂も小さい普通の住宅と変わらない寺であった。延命院を出て絶江坂を上りきると薬園坂に入った。江戸時代には坂上の西側に幕府の御薬園があり薬草の栽培を行っていた。これは小石川植物園の前身でもある。別名なまって役人坂、役員坂など呼ばれる。そのまま真っ直ぐ歩いて港区麻布運動公園でトイレ休憩となった。ここで一服した。椅子に座り佐々木さん、播磨さん、成田さんから差し入れのお菓子類を頂いた。ここは有栖川宮公園の一角である。運動公園は土の入れ替えが始まり工事中であった。15分ほどで出発した道路を越えて坂を下る。ガマ池があった。ここは元麻布2丁目である。天然湧水の池があった。ガマ池と呼ばれた。江戸時代は備中成羽を所領とした交代与力〔旗本〕山崎主税助治正の邸であった。5千石の旗本であった。

この池に大ガマがよく屋敷の菓子を食べて来たという。文政4年に古川橋から出た火事がこの辺りまで広がった時この大ガマが水を吹き出し屋敷を守り菓子のお礼をしたという。この伝承で出入りの清水氏が紙のまじない札を発行して火事の予防札として売り出し大成功したという。この屋敷は明治維新後渡辺国武大蔵大臣の邸となったがお札の販売は引き続き清水家が行っていたという。今はマンション出来で小さな池が残っている。道からは見えない。六本木ヒルズの手前に27番正光院へ着く。



27番正光院



正光院の梅満開

正光院は筑前福岡藩黒田家の祈願寺として創建された。三代黒田忠之の時代に黒田騒動が起きた。藩主忠之は藩の安泰を祈願して子安薬師を正光院の本尊として開基した。境内には梅が咲き誇っていた。もう春が近い。ここを出て六本木を通り抜け6番札所不動院に着く 恰幅の良い住職が入



6番不動院



20番鏡照院



67番真福寺

口で迎えてくれた。高野山真言宗五大山不動院という。創建不詳ながら万治元年〔1658〕麴町平河町より当地へ移転した、江戸時代には境内に祀る兒稻荷が庶民の崇敬を得て信者が多かった。しかし明治2年の神仏分離令により廃棄させられた。今は立川一門により本堂で落語会を月一回行い人気を集めている。この住職の太腹を見ていると私が小さく見えたこの体格は千と千尋の神隠しを連想した。しかし親切ににこやかに明日行われる落語会のパンフレット頂く。だいぶ前から立川談志一門の落語会が行われてきたという。ここでマフタに入る。いずみガーデンを横切る。左右はオクシヨンのマンションが並ぶ。東京でも一番高い住宅街である。泉ガーデンレジデンスは一ヶ月家賃が138万円を始め一番安く月34万円(3DK)である。一ヶ月の収入が100万から300万位ないと入居できない。恐ろしい高価な賃貸住宅街の中を歩いて山を越すと愛宕通りに入る。交差点を横切り歩道橋を越えると都立芝公園に着いた。今日の

昼食場所である。昼食は毎回近くのココカレーの店へ行く。先客では大塚、鈴木、杉本さんらが2階に座っていた。池田、高橋、佐々木、岡、成田、播磨、高野、三ツ森と埼玉勢が加わり2階は一杯であった。食後芝公園へ戻り皆と合流して午後1時公園を出る。直ぐに20番鏡照院に着く。場所は東京慈恵医科大学の裏にあたる。真言宗智山派の身代山鏡照院という。身代不動尊、身代不動明王を祀る。この辺は江戸時代から愛宕山を中心として寺院の多い地区であった。創建は不詳なれど応永6年〔1460〕の開基と伝わる。宥俊和尚が慶長19年〔1614〕常陸から上京し元和元年〔1615〕愛宕下の土地を拝領開山したとも伝わる。明治22年高尾山飯綱不動明王を勧請した。家康から伝わる寸余の秘仏將軍地藏尊が当院にはある。ここを出て67番真福寺に向かった。本日廻る寺院の中で一際立派な裕福な寺院が真福寺といえる。大きな高層ビルを建てその一階2階が寺院であり他はテナントに貸与しており一等地で交通至便の地区だけにリッチなお寺となった、

真福寺は真言宗智山派総本山智積院の別院であり、摩尼珠山寶光院真福寺が正式名である。ご本尊は薬師琉璃光如来である。天正19年〔1591〕照海上人が家康を慕って江戸入りし鉄砲洲に庵室を構え慶長10年〔1605〕に家康より愛宕下に360坪を拝領して開創したという。元禄年間に入ると四国八十八ヶ所詣で信仰が盛んになり67番目に名をつられた。平成7年に真福寺愛宕東洋ビルが完成し豊かな経営が始まった、住職は毎日外車に乗り市川の自宅から通勤しているそうだ。

真福寺は階段が多く失礼して下で手を合わせた。さくらだ通りからマッカーサー通りに入る。最近完成した道路である。東京都環状2号線道路である。東京都江東区有明2丁目から港区新橋、新宿区四谷、を経て千代田区神田佐久間町1丁目に到る都市計画道路である。俗称はマッカーサー道路といわれるが敗戦後マッカーサーが統治した時には敗戦国に立派な道路は不要とされていた。これは一般市民やマスコミの誤解である、虎の門。溜池、日枝神社前を通りTBS赤坂前から赤坂2丁目、4丁目を通り長い坂を上り81番光蔵院へ向かった。坂のためゆっくり上ったが港区は坂の多いのに参る。薬研坂を上った。長さ167m高低差7mあり急坂急傾斜であり別名では何右衛門坂とも呼ばれた。薬研の名称は漢方薬を砕く際に使用する薬研に似て両側の形が薬研に似ていたことで名がつけられた、

本来は12番札所威徳寺（赤坂不動尊）へ行く予定が現在工事中で立ち入り禁止となり赤坂見附を抜けて光蔵院（81番）に向かった。一番最後に坂を上がると先頭はUターンして戻ってきた。ここも立ち入り断られたそうだ。現場は行っても車が停まり何も見えない、入寺は出来ないとのこと

やむなく住職の家をパチリと撮る。元来た道薬研坂を今度は下る。青山通りへ出る手前を左に入ると突き当たりが高橋是清翁記念公園である、ここでトイレ休憩となった。光蔵院（81番札所）は寛永年間に創建され当時は飯倉（西久保八幡社の近く）に薬師如来を祀ってきた。享保年間に川崎大師河原平間寺〔厄除け大師〕が江戸の御旅所として光蔵院は弘法大師像安置したため飯倉厄除け大師として多くの人の信仰を集めた。戦後昭和31年に再建されたが昭和61年にこの地に移築した。この寺には檀家も墓所もない。住職は蓮田市にある妙楽寺と兼務している。今後この寺は参拝、



81番光蔵院住職家



81番光蔵院昨年撮影



高橋是清像

を断るようである。付近の住民から苦情で出ているようで大勢の人が来て話す声は住民の反対となって寺側に圧力をかけたようだ。昨年までは拝観できたがむりやりにあけて頂いた様子であった。

高橋是清は2.26事件で暗殺された。この赤坂の自邸で胸に6発の拳銃を青年将校に撃たれ82歳で亡くなった。明治、大正、昭和と大蔵大臣として日本国経済財政を安定化させた功績は著しい人物である。父は幕府御用絵師で母は奉公人で16歳で是清生んだ。仙台藩足軽の高橋家へ養子となりその後アメリカ留学などして官僚となり、政治家、立憲政友会総裁、内閣総理大臣などつとめ特に大蔵大臣の功績が素晴らしく評価された。午後2時30分公園を出る。青山通りを歩く。公園の前が東宮御所である。外苑駅前から右に入る。熊野通りを歩く。この辺も国際的な店が多い。学校も多いせいかタイ料理の店とかインド料理と異国情緒がある通りである。熊野神社を右に曲がり間もなく9番龍巖禅寺に着いた。



9番龍巖寺入口付近



9番龍巖寺本堂



9番龍巖寺源義家座石



9番龍巖寺芭蕉句碑



10番聖林寺入口



10番聖林寺本堂

龍巖寺は古碧山龍巖寺という臨済宗南禅寺派の寺院である、御府内88ヶ

所靈場巡りはすべて真言宗の寺院であるがここだけは臨濟宗の寺院であった。この理由は明治の神仏分離令で9番札所であった淨性寺が廢寺となり代わりに熊野神社の別当であった龍巖寺が代わりに加わった。境内に入ると源義家腰掛石や芭蕉句碑がある。芭蕉は【春もやや景色と戸の不月と梅】の句碑があるが米軍の空襲で石碑は痛みが激しい。芭蕉は文人墨客と茶道や俳句など楽しんだ庵もあったが戦災で消滅した。源義家は後三年の役の折ここで軍勢を整備し奥州に向かったという。寺の前が坂があり勢揃坂といわれる。この寺は名主半右衛門が邸宅を捨てて寺として換室を開山として寛永7年〔1630〕に創建した。また広島浅野本家の菩提寺でもある。赤穂浪士が討ち入り後に浅野家の菩提寺となった。境内には4基の土饅頭が並んでいた。墓所には江戸時代の蘭学者で自殺した小関三英の墓所もある。歴史の溢れる寺院であった。住職の夫人が毎回菓子(飴)を頂き一同で配られた。臨濟宗の古刹の心温まるもてなしに感謝いたしたい。ただ芭蕉、義家、浅野家などは説明表示がないので前もって調べないとわからない。義家の石も植木屋に聞いて判ったが見落とすところであった。勢揃坂を下る。都立明治公園は今は国立競技場の解体新設工事のため閉鎖されている。昭和20年5月25日の空襲で私は危なく命を落とすところであった。東京日暮里で第一回空襲で焼け出されこの地に大邸宅の留守番として一時住んだ。この場所はタイ大使館とか外交官の住んでいる場所で安全で空襲はないとのことで住んだが大空襲となって再び焼け出された。当時陸上競技場は軍隊が駐留していた。その前の防空壕に避難した。5月23日の空襲の時は守衛兵の人は許可したが5月25日は守衛兵が使用するので不許可となった。ここに爆弾が落ちて多くの軍人が亡くなった。人間の運命とはわからないものだと思い出しながら歩く。今でもこの時の兵隊さんの顔が浮かぶ。意地悪くここは我々の壕であると威張って拒否された。前日の善意ある兵士であれば一命が危なかった。

最後の10番聖林寺に着く。毎年最後はこの寺であるが寒桜が咲いている時もあった。今年は寒いせいか咲いていなかった。聖輪寺は神亀2年〔725〕行基菩薩が北越遊行の時この地で休息した時谷の中から光がさし聖如意輪観音が現れ(この地は私の因縁あり汝宜しく普及せよ)と申して大木に消えた。行基は感激してこの古木より三尺五寸の如意輪観音を刻み石の上に安置した。これゆえここは観谷山と号す。この観音像を狙った泥棒が鑿で観音を盗むとき鑿が自分の身体に刺さり死亡した。これから目玉観音、千駄谷観音といわれ多くの人々が信仰を深めた。江戸時代には高台の上にあって石段で登った。今は坂の途中に立地している。ここで般若心経を上げて今日のコースはすべて終了した。北風の寒い一日であった。